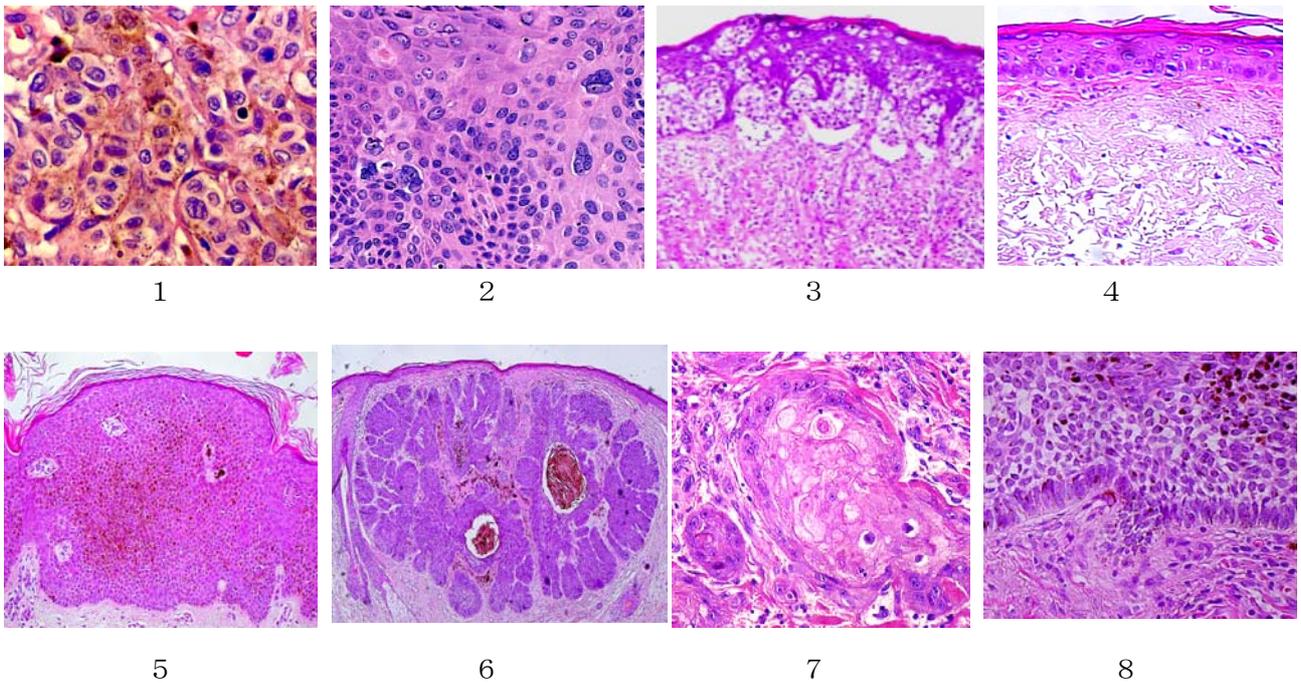


平成29年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題(2018/02/05)

臨床写真



組織標本写真



各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(ア～ケ)を[ ]に、組織標本(1～8)を選んで< >に記入しなさい。  
 (写真と組織は同一の患者さんのものではありません)。  
 最後の問題は、( )内に適切な答を書きなさい。

1.湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に( )  
 がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では( )や( )と誤診されることがあ  
 る。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は< >である。

2.多くは顔面に生じる腫瘍で、転移はほとんどない。しかし局所侵襲性は強く、( )まで浸潤する例もある。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は< >である。この腫瘍細胞の辺縁では組織写真<8>の細胞配列が特徴的で、これを( )と呼ぶ。また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

3.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では( )に生じる割合が多い。母斑細胞母斑との鑑別診断では、この腫瘍の特徴をABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、このBの意味は ( )である。この腫瘍の組織診断のための検査では、なるべく( )とすべきである。

また、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は< >である。

最近では治療薬剤の開発が進み、根治切除不能な場合は、摘出組織の( )の有無によって、薬剤の使い分けを検討し( )や( )を用いるようになってきている。術後や薬物治療中の経過観察には( )を半年～1年毎に行うことが多い。

4.糖尿病性潰瘍の多くは足部に生じるが、これが合併する( )によって生じる場合の臨床写真は[ ]で、治療は( )である。一方、合併する( )によって生じる場合の臨床写真は[ ]で、治療は( )であるが、進行して潰瘍が拡大する場合は( )が必要になる場合もある。

虚血性足病変の進行分類で、足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、( )分類の( )度である。

5.静脈性潰瘍の多くは( )に生じ、難治性であるが、これには( )によるものと、( )によるものが多い。

臨床所見はよく似ていて、その写真は[ ]で、これらの疾患に対して最初に行うべき重要な治療法は( )である。

6.皮膚科では、局所麻酔で手術を行うことが多く、使用する局所麻酔薬キシロカイン(リドカイン)には、少量の( )作用のある薬剤が含まれていて、これにより術中出血量を少なくすることが出来る。

3年生( )番 氏名( )